

(別紙 9)

宮城県におけるクマ類の調査の実施に係る評価報告（調査・計画策定事業）

1 現状のクマ類の調査の状況及び課題等

中山間地域の過疎化・高齢化、新興住宅地の拡大、放任果樹に誘引された個体の増加等の要因により、従来よりも人の生活圏に出没する個体が増加している可能性があり、被害対策に向け、これまで実施していなかった緩衝地帯における生息状況等の調査を行う必要がある。

2 実施する調査の具体的な内容等

実施時期	令和 6 年 1 0 月から令和 7 年 3 月
場所	県内一円
目的・必要性	捕獲等事業や出没防止対策事業の事業内容検討のため、緩衝地帯における生息状況等の調査を行うもの。
調査主体	宮城県（民間事業者等へ委託）
内容・得られる情報	ツキノワグマの生息状況、移動経路の調査
方法	カメラトラップ、ドローン調査による生息状況確認
活用方法	捕獲等事業の事業実施計画策定の参考資料、出没防止対策事業の事業内容の参考資料
事業費	4, 5 1 0 千円
備考	

注：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。実施する調査が複数ある場合は、調査の種類毎に各項目を記入すること。

3 調査結果及び考察（事業終了後の評価報告時のみ）

生息状況の調査において、調査箇所の緩衝地帯においてツキノワグマの生息状況や移動経路が確認され、翌年度の捕獲事業を行う上での参考となった。

また、出没抑制対策等を行う上で当該調査データを活用し、対応策について検討することができた。

注：調査によって得られた情報と分析結果、調査結果の活用方法等を記載するとともに、今後の改善点や必要な調査等についても記載すること。

4 その他

--

注1：モニタリング・調査の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。